

2001. 5.26

相次ぎ高知新港に

28日 掘削に期待 まず米船

ことや、寄港の呼び掛けを受け
たこともあり、高知新港に変更
した。
入港後、報道各社に船内を公
開し、研究成果の一部も発表。
翌二十九日には出港する。

四国沖の海溝、南海トラフの
掘削に期待
掘り抜いてきた穴の中に計測
機器を投入し、たい積層内の物
性や変位を直接調べている。プ
レート運動の特性や南海地震の
発生メカニズムの研究に役立つ
という。

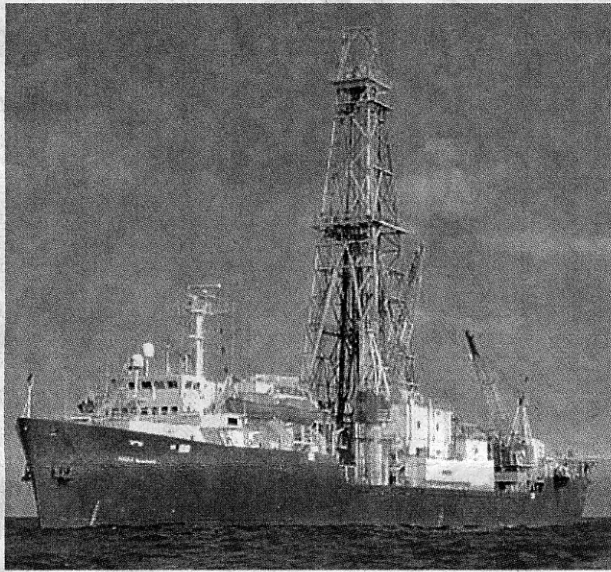
今年八月に台湾を出港、南海
トラフの調査を続けながら七月
二日に横浜に入港して今回の任
務を終える。寄港地は当初、大
阪を予定していたが、高知大に
掘削で採取した海底たい積層を
研究する同研究センターがある
から歴史的な海洋環境の変動を詳
細に把握する。

高知海洋コア研究センター
や北海道大、台湾の研究者も乗
船している。四月末にオースト
リアを出港、台湾、函館を経
て高知新港に入港する。寄港の
際、県民への一般公開も計画さ
れている。

後、日本の沖合で活発化する国
際的な深海海底探査の拠点基地に
できれば」と話している。

二十八日に入港するのは米国の
ジョイデス・レゾリュート船
（一八、六〇〇ト）。日米
欧など二十一カ国が進めている
「国際深海掘削計画」の一環
で、現在、参加国の研究者約三
十人が乗船して、室戸岬の南東
約百七十キロ沖合で調査活動をし
ている。

フィリピン海プレートのもぐ
り込みにより、たい積層が押さ
れてできた「付加体」を掘削。



28日に寄港予定の米調査船ジョイデス・レゾリュート船（資料写真）

同研究センター長の安田尚登
教授は「高知新港は南海トラフ
に近く、大阪よりも入港しやす
い。今後、日本の大型掘削船も
就航が予定されている。新港が
科学研究でも利用される港にな
るよう、各国の調査船に寄港を
呼び掛け、調査に直接的、間接
的に協力していきたい」と話し
ている。

南海トラフ調査の国際船